

[た よ り]

鹿児島県透析医会だより

前田 忠

はじめに

鹿児島県透析医会は日本透析医会の鹿児島県支部として、昭和61年2月9日発足致しました。第1回総会を昭和61年5月11日に開催して以来、平成15年5月24日の総会で第17回になります。

平成15年9月30日現在の会員数は83名（施設長会員57名、勤務医会員26名）です。キーマン配布用の鹿児島県透析施設一覧では126施設が登録されています。このうち33名が日本透析医会の会員です。年会費は施設長会員が2万円、勤務医会員が千円です。

鹿児島県透析医会の主な活動としましては、毎年1回総会を開催し、そのとき特別講演をして頂き、その他に毎年数回の学術講演会を開いて、看護部会や臨床工学技士部会の方々とともに、より良い透析医療をめざして努力しております。平成12年6月3日第14回鹿児島県透析医会総会、講演会までの活動については、日本透析医会雑誌15巻3号に報告いたしましたので、その時以降の活動状況をご報告致します。

1 平成12年鹿児島県透析医会の活動

① 8月10日

第1回災害情報伝達訓練。

② 9月28日

役員会開催（鹿児島県角膜・腎臓バンクへ40万円寄付）。

③ 10月15日

臓器移植普及推進街頭キャンペーン。

④ 10月19日

鹿児島県保健福祉部障害福祉科の透析施設視察（今村病院分院）。

⑤ 11月1日

第23回鹿腎協ふれあい運動会の救護班、優勝旗を寄贈。

⑥ 11月21日

鹿児島県透析医会学術講演会開催。演題「2次性副甲状腺機能亢進症に対する新しい治療」、講師、春日部秀和病院 栗原怜先生。

2 平成13年鹿児島県透析医会の活動

① 2月4日

役員会開催（役員人事、鹿腎協機関紙「ふれあい」への広告料改正）。

② 3月8日

鹿児島県透析医会学術講演会開催。演題「実例に学ぶ医療事故とリスクマネジメント」、講師、日本大学法医学教室教授 押田實先生。

③ 5月26日

役員会開催に続いて第15回鹿児島県透析医会総会、鹿児島県透析医会特別講演開催。演題「高齢透析者の合併症」、講師、日本透析医会名誉会長 平澤由平先生。

④ 5月27日

第2回ダイア会（親睦ゴルフ大会、南国カンツリークラブ）。

⑤ 7月6日

第2回災害時情報伝達訓練。

⑥ 7月30日

鹿児島県角膜・腎臓バンク協会理事会（平成13年度分の20万円寄付）。

⑦ 9月15日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「二次性副甲状腺機能亢進症の新しい治療」, 講師, 和歌山県立医科大学血液浄化センター教授 秋澤忠男先生。

⑧ 9月25日

役員会開催（☆鹿児島県透析医会ホームページ開設, アドレスは <http://www4.synapse.ne.jp/dia-kagosi.ma/>。☆鹿児島県透析医会各委員会設置。総務：中島哲先生, 研修：池田徹先生, 災害事故対策：上山達典先生, 広報：上田博章先生, 親睦：水田敏久先生, 政策倫理：故郷米次郎先生, 保険：前田忠）

⑨ 10月2日

鹿腎協役員との懇談会。

⑩ 10月21日

臓器移植普及推進街頭キャンペーン。

⑪ 11月4日

第24回鹿腎協ふれあい運動会救護班。

3 平成14年鹿児島県透析医会の活動

① 1月24日

鹿腎協役員との懇談会。

② 3月3日

役員会開催（診療報酬点数改定について, 他）。

③ 3月14日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「腎不全患者の心理的問題点～サイコネフロロジーをめぐる～」, 講師, 東京都精神医学総合研究所 福西勇夫先生。

④ 3月16日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「腎性上皮小体機能亢進症の治療戦略」, 講師, 名古屋第二赤十字病院第四外科 富長芳博先生。

⑤ 5月18日

役員会に続いて第16回鹿児島県透析医会総会開催。鹿児島県透析医会特別講演「透析医療の現況と将来」, 講師, 日本大学大学院教授 高橋進先生。

⑥ 5月19日

第3回ダイア会（島津GC）。

⑦ 8月3日

役員会開催（診療報酬改定による影響について）。

⑧ 8月9日

鹿児島県角膜・腎臓バンク協会理事会（平成14年度分20万円寄付）。

⑨ 10月13日

臓器移植普及推進街頭キャンペーン。

⑩ 10月27日

鹿腎協ふれあい運動会救護班。

⑪ 11月10日

日本透析医会30周年記念シンポジウム（中島, 上山, 前田, 出席）。

4 平成15年鹿児島県透析医会の活動

① 1月11日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「透析医療に関わるトラブルと倫理的諸問題」, 講師, 札幌北クリニック 大平整爾先生。

② 3月15日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「透析施設における院内感染対策」, 講師, 鹿児島大学医学部泌尿器科 川原元司先生。

③ 5月24日

役員会に続いて第17回鹿児島県透析医会総会開催。鹿児島県透析医会特別講演「透析症例の開心術」, 講師, 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻, 循環器・呼吸器疾患制御学教授 坂田隆造先生。

④ 7月6日

第4回ダイア会（島津GC）。

⑤ 7月28日

鹿児島県角膜・腎臓バンク協会理事会（平成15年度分20万円寄付）。

⑥ 8月30日

役員会開催（キーマンの人事について, 日本透析医会雑誌投稿について）。

⑦ 9月12日

第4回災害時情報伝達訓練。

⑧ 10月19日

臓器移植普及推進街頭キャンペーン。

⑨ 11月20日

鹿児島県透析医会学術講演会。演題「腎性貧血をめぐる」, 講師, 前田記念腎臓研究所武蔵小杉クリニック 前田貞亮先生。

おわりに

人口100万人当たりの透析患者数は、九州各県が上位を占めており、鹿児島県は全国6位です。新たな透析患者の発生を防ぐため、鹿児島県透析医会としても学校腎臓・糖尿検診や生活習慣病予防検診などを行い努力しております。世界最高齢だった鹿児島県の本郷かまとさんが平成15年11月1日にお亡くなりになりましたが、九州各県では、ほかの地区より高齢透析

者が増加していることが一因とも考えられます。

平成15年10月19日、鹿児島県ではじめての脳死臓器提供者ができました。ドナーは人工透析を受けておられ「病気に苦しむ仲間を助けたい」との一心で、自らドナーカードを持っておられたとのこと。臓器移植普及推進街頭キャンペーンでは住民の理解がなかなか得られず苦戦しておりますが、透析患者さん達のこういう切実な思いが、日本の臓器移植医療を推進していく力となっていくと考えます。